

# ■ 会議参加報告

Journal of the Virtual Reality Society of Japan

## ■ インタラクション 2005

坂本大介

はこだて未来大学

情報処理学会ヒューマンインタフェース研究会などが主催するインタラクション2005が2005年2月28日から3月1日まで学術総合センター・一橋記念講堂にて開催された。

今回で9回目の開催となる「インタラクション」は開催回数を重ねるごとに規模を拡大しており、今年度は昨年度よりも参加者が200人近くも増え、600人を越える参加者を集める国内最大規模のヒューマンインタフェース関連の会議となった。「インタラクション」では一般講演発表だけでなくインタラクティブ(デモ)発表、今年度から新たに加わったポスター発表と幅広い発表形態がある。一般講演発表は13件(投稿数34)、インタラクティブ発表は81件(投稿数134)件、ポスター発表73件(インタラクティブ発表に投稿されたものの中でポスター発表として採録されたものとポスター発表として投稿されたもの)と非常に多い発表件数でありながら厳しい査読によりどれも質の高い発表であった。

ヒューマンインタフェース系の会議では講演発表においてもデモが必須となるが、特に「インタラクション」ではデモ発表が重用視される傾向がある。これを反映したものとして参加者の投票によって選ばれた発表に送られるインタラクティブ発表賞がある。今回は4件の発表が選ばれた。ストローを吸う動作をインタフェースに応用した「Straw-like User Interface (SUI): 吸飲感覚提示装置」(電通大)、今回の会議では絵を描くシステムなど

アート系の発表が目立ったが特に声の大きさや高低、長さを用いて絵を描く「koekaki(コエカキ)一声で絵を描くー」(はこだて未来大)は面白かった。また、自由度の高い音楽再生インタフェース「Musicream: 楽曲を流してくっつけて並べて思い出すことのできる音楽再生インタフェース」(産総研)、空手の型の学習に音楽を用いた「空手の型の極意を学ぶための音楽フィードバックの利用」(静岡大)と、これら受賞した展示発表には2時間を超えるデモ発表時間内に人垣が絶えることがなかった。受賞した発表以外にも刺激のかつすばらしい発表が多かったように思う。また、優れた一般講演発表に送られる論文賞は「社会的関係を用いた評価コメントの自動要約とその提示手法」(阪大)が受賞した。

次回の「インタラクション」は2006年3月2日から3日にかけて開催される(開催場所は未定)。

<http://www.jaist.ac.jp/interaction2005/>

## ■ IEEE VR 2005

浦谷謙吾

大阪大学

2005年3月12日～16日の5日間、ドイツのボンにてIEEE Virtual Reality 2005が開催された。なお、ボンは、かの有名な音楽家Ludwig van Beethovenの生誕地であり、彼の名は会場の名前にもそのまま使われている(Beethoven Halle)。本会議がヨーロッパで開催されるのは今回が初めてである。また、参加者数は500名を超え、過去最大の数値を記録した。参加者の多かった上位